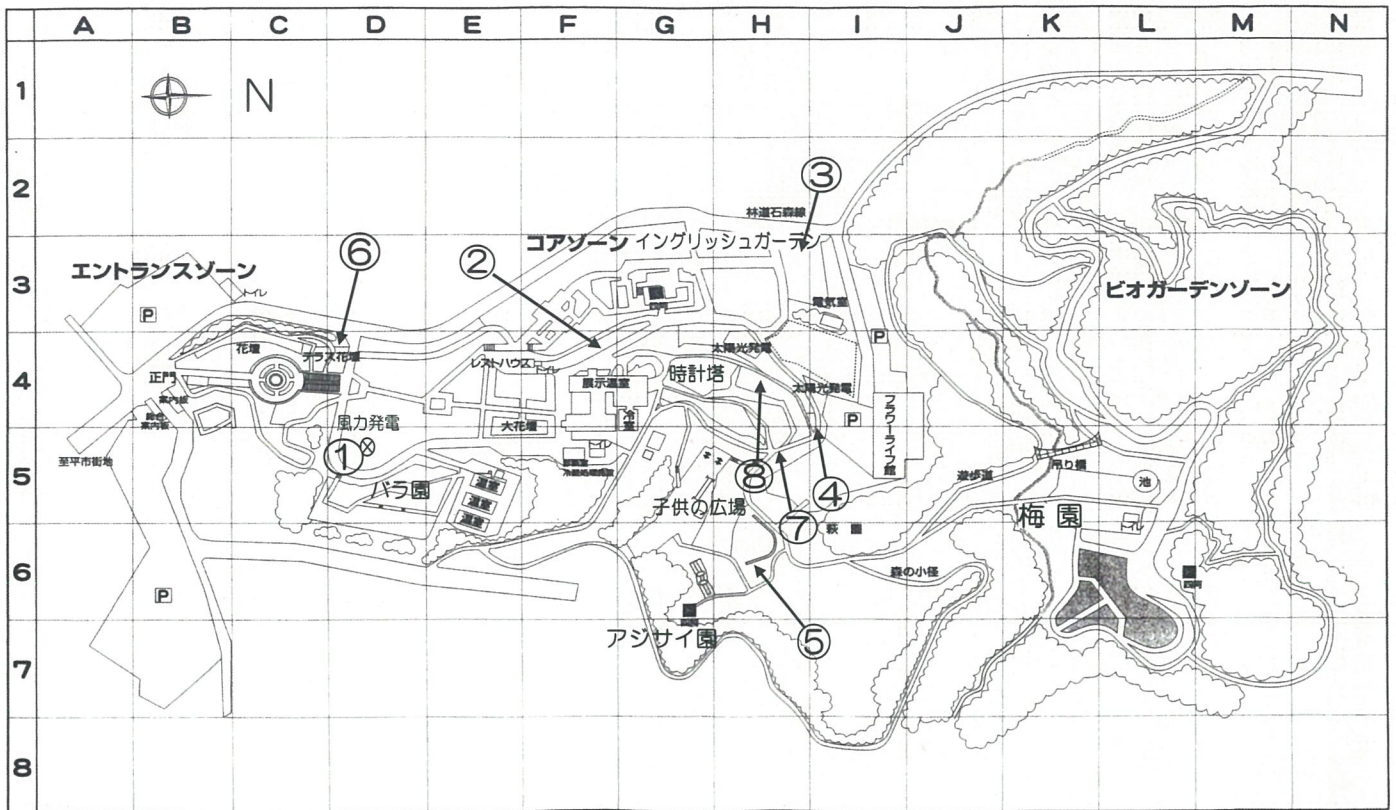


フラワーセンター【5月の花】

2020年度 5月前半

※園内の植物の盗難が相次いでいます。

園内の植物は絶対にとらないでください。



①ネモフィラ (風力発電下)



ハゼリソウ科 一年草 原産：北アメリカ
ネモフィラは森の妖精のような、澄んだブルーの花が愛らしく、春の花壇やコンテナの寄せ植えなどに多く利用されています。細かく切れ込んだ葉が密に茂り、自然に分岐して咲きながら大きくこんもりと成長します。

②ハンカチの木 (展示温室の西側通路沿い)



ミズキ科 落葉高木 原産：中国
4月下旬～5月上旬に、白いハンカチのような姿の花を咲かせます。ハンカチのように見える部分は苞と呼ばれる部分で、この苞がハンカチを2枚つるしたように見えることから「ハンカチの木」と言われています。

③ポタン (イングリッシュガーデンの北側ポタン園)



ポタン科 落葉小低木 原産：中国
中国ではポタンを「花の王」とし、貴重な花としてたたえられてきました。牡丹の花の開花時期は、4～5月にかけて開花しますが、花を開くのはわずかな間だけで、一つの花なら3～4日に過ぎません。直径が20cmを超える花もあるだけに、崩れるような花のはかなさも魅力の一つです。

④モッコウバラ (フラワーライフ館駐車場のフェンス沿い)



バラ科 常緑つる性低木 原産：中国
モッコウバラは常緑でトゲがないため扱いやすく、そしてバラの欠点である病害虫や耐寒性・耐暑性ともに強いので、とても育てやすいバラです。花は一季咲きで白または黄色の八重咲で、小さな花が房状に十数輪ずつ咲きます。

⑤西洋シャクナゲ (子供の広場北側のシャクナゲ園)



ツツジ科 常緑広葉樹 原産：日本、ヨーロッパ
シャクナゲはボール状に咲く気品のある花が魅力です。日本の鉾山に自生するものを日本シャクナゲ、欧米で品種改良されて日本に来たものを西洋シャクナゲと呼んでいます。

⑥ヒナゲシ(シャーレーポピー) (大階段を上った頂上の左側)



ケシ科 一年草 原産：南ヨーロッパ
ヒナゲシのうち野生のものをコーンポピー、園芸種をシャーレーポピーと呼びます。基本色は「真っ赤」でピンクや白、薄紫などのものや2色のもの、八重咲きのものもあります。開花はアイスランドポピーよりも遅く5月の連休頃です。ヨーロッパでは初夏の花ですが、日本では梅雨入りで消えます。

⑦ツツジ(園内通路沿い)



ツツジ科 常緑低木～半常緑低木 原産：日本、アジア東部
ツツジは日本を代表する花木の一つで、春にピンクや赤、白などの美しい花を咲かせます。育て方が簡単なことから、庭のシンボルツリーとして親しまれてきただけでなく、鉢植えても育てることができます。ツツジは種類の多い植物で、約90種類が東アジアに分布しているといわれています。

⑧オオデマリ (時計塔の北側太陽光発電前)



スイカズラ科 落葉低木 原産：日本
高さが2～3メートルになる低木で、5～6月に球状に密集した花を咲かせます。花は咲き始めが黄緑色で、開くと白色になります。花のかたまりは直径10cmを超し、まさしくオオデマリ(大手鞠)の名がぴったりです。花の咲き方や雰囲気などがどことなくアジサイに似ています。